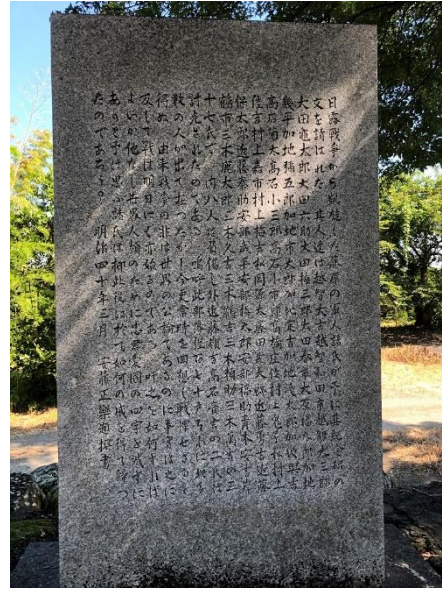


安藤正楽と顔のない碑



藤原の八坂神社に「顔のない碑」と呼ばれている碑文が削られた碑が建っている。「日露戦役記念碑」と名付けられたこの碑は、安藤正楽が凱旋軍人など地域の人々からの依頼を受けて撰文したものである。正楽は、反戦の思いを主張し、「世界人類のために忠君愛国の四字を滅するにあり」と記した。その文面が問題視され、碑文が削られた。現在は、遺族の方によって元の文面を刻んだ碑が記念碑の横に建てられている。

人道主義、反戦主義を貫いた安藤正楽は、県議会議員時代、教育現場で起きている部落差別の問題とその解消について県議会で言及し、教育の機会均等を要請した。また、水不足に悩む地元のために春日井水道を自費で掘るなど、地域住民のために尽くした人物である。